

各位

会社名	K L a b株式会社
代表者名	代表取締役社長 森田 英克 (コード番号：3656)
問合せ先	専務取締役 高田 和幸 E-mail ir@klab.com

特別損失の計上及び通期業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、2021年12月期第1四半期連結会計期間において、特別損失を計上するとともに、2021年2月10日に公表しました2021年12月期（2021年1月1日～2021年12月31日）の業績予想を修正いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 特別損失の計上

2019年9月26日にリリースした「ラブライブ！スクールアイドルフェスティバル ALL STARS」及び2020年7月16日にリリースした「テイルズ オブ クレストリア」について、直近の業績の動向等を踏まえ、ソフトウェア資産における将来の回収可能性を慎重に検討した結果、当該ソフトウェアの帳簿価額の全額を減損処理いたしました。これにより、2021年12月期第1四半期において、1,540百万円を減損損失として特別損失に計上いたしました。

2. 通期業績予想の修正

2021年12月期 通期業績予想（2021年1月1日～2021年12月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想（A）	百万円 33,000 ～35,000	百万円 500 ～2,000	百万円 500 ～2,000	百万円 300 ～1,400	円 銭 7.80 ～36.39
今回修正予想（B）	27,000 ～32,000	△500 ～1,800	△300 ～2,000	△1,300 ～200	△33.71 ～5.19
増減額（B - A）	△6,000 ～△3,000	△1,000 ～△200	△800 ～0	△1,600 ～△1,200	
増減率	△18.2% ～△8.6%	-	-	-	
（ご参考） 前期連結業績	33,952	2,149	1,564	767	20.08

【修正の理由】

売上高は、当第1四半期連結会計期間において、主に「ラブライブ！スクールアイドルフェスティバル ALL STARS」及び「テイルズ オブ クレストリア」が想定を大きく下回って推移したことにより、当初予想を下回る見通しとなりました。

営業利益及び経常利益は、売上高の減少にともない、利益の減少を見込んでおりますが、減損損失を計上したことによる減価償却費の減少及び現在検討を進めているコスト削減による費用の減少を想定しております。

親会社株主に帰属する当期純利益は、減損損失を特別損失として計上したことから、減少を見込んでおります。

なお、現時点におきましては、新作タイトルのヒット度合い及び既存タイトルの売上動向を精緻に予測することは困難であるため、引き続きレンジ形式による業績予想開示といたします。

2021年12月期第1四半期の業績及び財務状況につきましては、本日開示いたしました「2021年12月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）」をご参照ください。

[修正後業績予想の考え方]

(売上高)

- ・ 今期の新規タイトルは、「ラピスライツ」の1本を想定しております。
- ・ 既存タイトルの多言語版追加は、「ラブライブ！スクールアイドルフェスティバル ALL STARS」簡体字版の1本を想定しております。
- ・ 既存タイトルの売上ライフサイクル及び新作タイトル（既存タイトルの海外展開含む）のヒット度合いを勘案し、レンジを設定しております。
- ・ レンジ幅上限/下限は、新作タイトルの好調/不振及び既存タイトルの減衰が大きい/小さい場合を想定して設定しております。
- ・ 当社単体事業としてのカジュアルゲームについては、保守的に売上を見込んでおりません。

(費用)

- ・ 新作タイトルのリリースに伴う運営費用（労務費、外注費/業務委託費、減価償却費）の増加を想定しております。
- ・ 人員増加による労務費及び採用関連費用の増加を想定しております。
- ・ 2022年以降リリース予定の新作タイトル開発の本格化に伴い、開発関連費用のソフトウェア資産への振替額が増加することによる費用の減少を想定しております。
- ・ 前期から引き続き、コロナ禍による費用（交通費/接待交際費/福利厚生費等）の未消化を想定しております。
- ・ 足元で検討を進めているコスト削減に関しては、削減規模の大きい/小さい場合を想定して設定しております。

(その他)

- ・ 4月12日付で連結子会社となった(株)グローバルギアは、前事業年度と同程度を取り込んでおります。

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に掲載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以上